

世代の種類と特徴

世代の呼び名	年齢	特徴
大正世代	102～104歳 1912-1926	大正時代末期から昭和時代の戦前期に学生時代を過ごす。大正ロマンや昭和モダンなどの影響で、歌謡曲や洋服などの衣装や洋食文化が普及。日中戦争、太平洋戦争で若手が最も犠牲を受けた
昭和一桁世代	84～102歳 1926-1934	世界恐慌の最中に生まれ、戦時体制に少年期を送る。第二次大戦終了後は金の卵など若い労働力として戦後復興の担い手となった
焼け跡世代	79～83歳 1935-1939	第二次世界大戦中に幼少期と少年期を防空壕と焼け跡の中で過ごし、飢餓や経済的困窮、など戦争による被害に苦しんだ。軍国主義教育と民主主義教育の両方を経験し、第二次大戦の記憶を持つ最後の世代。
戦中生まれ世代	72～77歳 1941-1946	プレ団塊の世代と呼ばれることもある。幼少期を空襲の脅威にさらされて過ごし、第二次大戦の終結後に小学校に入る。中卒・高卒で社会に出た者が多く、大学進学者はまだ少ない。
全共闘世代 大学進学者をさす	69～77歳 1941-1949	全共闘運動・安保闘争とベトナム戦争の時期に大学時代を送った世代。15%が学生運動に関わっていたと言われている
団塊の世代	69～71歳 1947-1949	第一次ベビーブームが起きた時期に生まれた戦後世代。突出した人口構成から良くも悪くも日本社会に多大な影響を及ぼしている。ファッションという概念が浸透し始めた世代。2007年団塊世代の定年を、2007年問題という
しらせ世代	54～68歳 1950-1964	世相などに関心が薄く、何においても熱くなりきれずに興が冷めた傍観者のように振る舞う世代。「無気力・無関心・無責任」の三無主義を中心とする一種の個人主義に徹する傾向が見られた。
ポスト団塊世代	63～68歳 1950-1955	団塊の世代よりも数年後(1950年代前半)に生まれた世代。「しらせ世代」、「断層の世代」にも入り、先を行く「団塊の世代」の陰に隠れてしまった。テレビ、洗濯機、冷蔵庫といったいわゆる三種の神器が普及し始めた。
断層の世代	58～67歳 1951-1960	団塊の世代の次に現れた世代であり、高度経済成長の時代に育った。バブル景気も経験しており元祖オタク世代でもある。断層の世代が好消費と呼ばれるようにローンを組んで買い物をするなど消費水準が高かった。
新人類世代	48～59歳 1961-1970	社会を構成する一員の自覚と責任を引き受けることを拒否し、社会そのものが一つのフィクション(物語)であるという立場をとるとされた世代。新人類が子育て期に入った1990年代には「モンスターペアレント問題」などを引き起こした。
バブル世代	49～53歳 1965-1969	バブル景気の時期に就職した世代。小学校時代はスーパーカー、モンチッチ、リカちゃん人形、キキララが流行。中学時代から高校時代にかけていわゆるツッパリ文化の最盛期を迎え、校内暴力発生件数が戦後最多を記録。

団塊ジュニア世代	44～47歳 1971-1974	第二次ベビーブームに当たり、第一次ベビーブームの世代に次いで多い。いじめや不登校が社会問題となった。受験戦争。就職氷河期に遭遇し、高校卒業後の受験戦争と相互経験から「貧乏くじ世代」「不運の世代」とも呼ばれている。
ポスト 団塊ジュニア世代	39～43歳 1975-1979	団塊の世代を親に持つ世代。高校生時代からネット・ケータイに親しみ、インターネット業界の成長の時期に社会人となり、新しいネット文化の担い手の中心となった。失われた20年や就職氷河期に翻弄された世代でもある。
ミニマムライフ世代	30～38歳 1980-1988	昭和末期にあたり、小学校在学中にバブル崩壊、中学校在学中に阪神淡路大震災、大学卒業時は超就職氷河期と、受難の世代。消費を抑えて将来に備えて貯蓄しようというミニマムな生活を好む。また非正規社員が増加
ゆとり世代	14～29歳 1987-2004	2002年度学習指導要領によるゆとり教育を受けた世代。小学生在学中にコンピュータを導入した授業を受けている。無駄がなく自分に心地よいもの、プライドよりも実用性のあるものを選ぶという消費スタイル